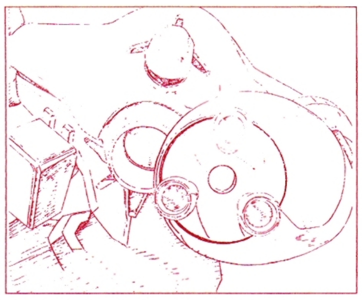
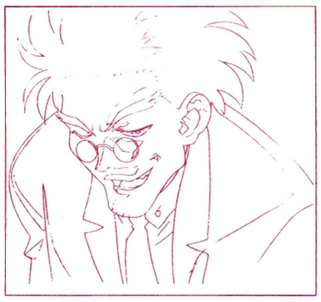
1999 JANUARY

PAC DE NEWS 64



謎の巨大メカ。一樹が見ていたモノは幻？　それとも……？　現実と虚構？が入り乱れる描写に注目しつつ、メカ戦そのもののリキの入った作画にも期待できそうだぞ。



三月の父であり、マッドサイエンティストでもある真田賢博士。爆発ヘアーは往年のマッドサイエンティスト、ララ○シュタインがモデル？

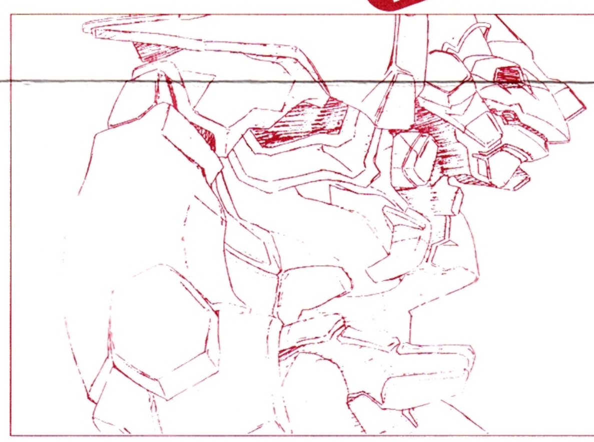
デュアル!! ぱられルンルン物語 原作:梶島正樹さん インタビュー



真田三月さんは学園のマドンナとのことですが、こんな表情をすることも。



主人公の四加一樹クンが、巻き込まれ型のキャラなのは、天地などと同じ梶島作品のお約束？



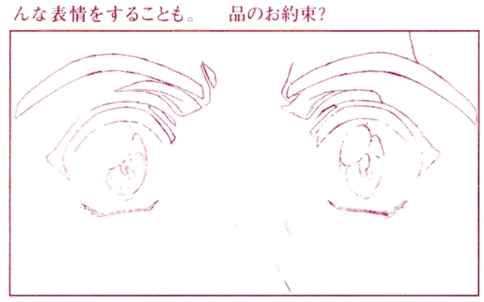
一樹がハルツィーネンと名付けているロボット？　これまで幻として触ることのできなかったそれに触れることができたとき、何かが変わる？

梶島テイストの秘密！

梶島「自分としては、企画を考えるにあたって、特に変わったものをやろうとか、人とは違ったものを作ろうとかあまり考えていません。でも、自分なりに自然な世界観やキャラクターを作ろうとしていろいろ考えた部分というのが、他の人からするとやけに細かい部分にこだわっているように見えるかもしれませんね。だからいろんなアイデアもわりとすんなり出てきてネタにつまるようなこともあまりないのですが、いざそれが企画として動き出すと、細かな部分まで仕掛けをしていたりするので、根本の部分でとんでもない絡み方をしていたりして、融通がきかない設定で、調整など面倒な作業が多くなって他のスタッフに迷惑をおかけしているかも知れませんね（笑）。

女性キャラクターについても、自分としてはバリエーションが少ないなぁと思っています。毎回ちょっとずつ味付けを変えているような感じですか。主人公より年上の女性キャラが多いのは（子どもに見えても実は年上タイプ含め）、主人公が中高生なら、やっぱり女性を意識する存在って先輩とか先生になるんじゃないかという気持ちがありますからなんで。ですから逆にもし自分が30代の男が主人公の作品を企画したら、ヒロインの女の子は今度こそ年下になるかも（笑）。」

主人公は受け手の目線で



何かを見ている一樹の目。それはこの作品を見ている受け手の目線でもある。巻き込まれたのは受け手のボクたち？

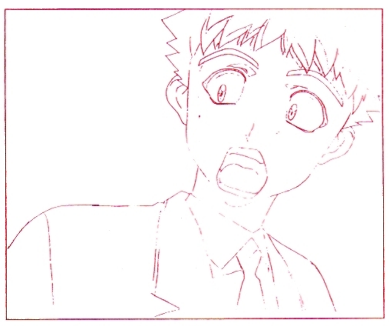
企画実現のいきさつ

梶島「この作品を思いついたのは、天地のOVAの第2期シリーズが終わったくらいでした。最初のイメージは、学校に新任の女教師が来るのですが、実は異世界から、ある能力を持つ人間を探しに来ていて、それで主人公が選ばれ、パラレルワールドに放り込まれるような感じでした。一昨年の暮れあたり、AICの三浦社長と話をしてみて、具体的に動き出したのですが、実は別の企画があって、社長との話もそちらがメインのはずだったのですが、結果的に『デュアル』の方が先に動きましたね。偶然とは恐ろしいものです（笑）。

自分の企画のたて方としては、オチを含め大体の物語や、ビジュアル的にも設定的にもキャラクターのイメージは殆ど固めてしまっていることが多いですね。『デュアル』についても、去年の4・5月くらいから、TVシリーズ『大運動会』を終えた、脚本の黒田洋介さんや監督の秋山勝仁さんが加わる形で打合せが進んでいきましたが、ストーリーや設定的に抜けてたり、矛盾があったりした部分以外は、自分が企画したイメージのものはそのまま残っていますね。現在も監修のような形で、ストーリー、デザイン、絵コンテなどは見させてもらっています。ロボットモノは自分の企画としては初めてですが、決して嫌いなわけではなくて、むしろ好きなほうですが、じゃあ自分が熱血ロボットモノができるかというと、それはできないだろうと（笑）。この作品のロボットも人によったらロボットというより大魔神に近いイメージを持つかも知れませんね（笑）。でも最近このジャンルも少なくなったし、そろそろやってもいいかと思っていたら、ガイナックスがエヴァンゲリオンを作っていたんですよね（笑）。」

声についてのこだわり

梶島「キャスティングについてはオーディションでいろんな人の声を聞かせていただいて、みんなで話し合いながら、キャラクターのイメージにあっているかどうかをポイントにして選んでいきました。今回は割と新人に近い人が多くキャスティングされていますが、そういう意図があった訳では別にありません。ただ個人的に、作品や作品中のキャラクターより先に声優さんのイメージで規定されるような感じはあまり好きではありませんね。声もあくまでキャラクターを表現する一要素としていい形でハマってほしいですね。ちなみに他社から出ている自分の作品に出演いただいた声優さんがこの作品にも参加します。誰か分かりますかね？（笑）。」



一樹役は山口隆行さん、三月役は田中理恵さんなど若手を抜擢したフレッシュなキャスティングだ。

PAC入会特典でちょっとイイ話

『デュアル！ぱられルンルン物語』原作の梶島正樹さんがイラストを描きおろしているのだ！　今回の入会特典のシステム手帳を持っていないと見られない、梶島さん初のCGイラスト！　ちょっとこれはコレクターアイテムですよ！　友だちにもこの素晴らしさを伝えてあげよう！

最後の天地無用！とは？

この『in LOVE2』は、ボクにとって、最後の『天地無用！』なので、ごめんなさいというばかりに、ねぎし流のライトの当て方に変えさせてもらいました。言葉の表現、ドラマ演出はもちろん、キャラクター描写や色指定に関してもかなり変えさせていただきました。最初のTVシリーズからやっている、ねぎしが言うならいいかと、かなり無理を通してもらったようなところがあるんですが、もちろん面白くなると思ってやってますよ。非常に自己満足に近いものなのかも知れませんけれど（笑）。



残りの2パートはハルナだけの単独カットなのです。後半の展開はハルナを中心に動いていくことを象徴しているということなのかな？

天地無用！ 遙かなる想い TENCHI MUYO in LOVE2





最初の2パートは天地の19才バージョンとハルナの2ショット。二人はかなり親密な関係なのか？



今回お見せしている絵はいずれも絵コンテの表紙に描かれていたもの。全部で4パートになります。

ねぎしひろし監督インタビュー

前作の『天地無用！ in LOVE』の公開初日のときにプロデューサーの真木さんから次もやらないか、と言われたときは、正直言って二度とこんなしんどい仕事はやりたくないなと思ってたんですけど、"もう一度ロスに行きたいだろ？"ということばに安直に負けました（笑）。

最初のテレビシリーズをひと夏の物語風な形。劇場版1作目の『in LOVE』はテーマ的な部分で「母の愛」というのがあって、正統的なところでドラマ仕立てにしたんです。でも、その2作では、個人的にやりきれていない部分があったんです。『天地無用！』は設定が多くて、それを追いかけていくうちに、本来の天地の立ち位置が見えなくなってしまったのではないかという思いが残っていました。だから、今回の『in LOVE2』では魎呼と阿重霞と天地と新キャラクターのハルナの4人に絞り込みました。阿知花をプラスとするとマイナスがハルナになりますが、それは光と影という意味ではなくて、両面の対になる存在なんです。そういうキャラクターの登場によって、天地自身の内面にある部分を描いていくことをテーマにして今回は作らせてもらいました。

キャラクターの関係性について、多方面からいろんな意見がありましたが、ボクとしては、ショートの話にしたいというのがあったんですよ。一人の少女の想いの中で成立するメルヘン。描き方によっては30分で描けるところを90分という尺で描き、その中に仕掛けをいくつも入れ込んでいくというドラマに仕立てたかったんです。まとめるまでが大変で、何度も何度も打合せして、試行錯誤して、シナリオも7稿までいきました。

たとえば、天地とハルナが過ごす舞台。題材としての舞台の選び方がありましたね。全部"想い"なんです。例えば城下町がありますよね。超近代的なビルが建っているところに城下町がある。その城下町の町並みは誰にも崩せない。それはこの町を守っていこうという"想い"なんです。例えば今回は浅草とか、台東区の根岸とかに取材に行ってるんですけれども、そこには戦後から残っている瓦のある町並みが残っているわけですね。その家を、世界を、守っていく"想い"っていうのを画面から感じ取って欲しいですね。60～70年代のレトロテイストを描きたいのではなくて、ハルナ自身が自分の世界を作るときにどこにいたら一番安心できるかなというところを感じ取ってもらいたいなと。

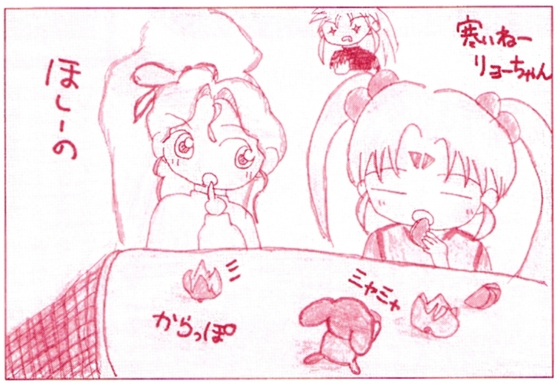
今回は音響演出的な面に関しても、例えば同じシーンを何回か繰り返し見せている部分があるんですけれど、音付けだけは一回ずつ違うんです。

アフレコ以降の音響作業は、ロサンゼルスで行ったのですが、こちらの仕掛けの意図がアメリカのスタッフが理解してからは、どんどん積極的な音作りになってきましたね。そして、最後に言われたのは"アニメーションは子供が観るものだと思っていたが、意見が変わった。ジャパニメーションは面白い。大人でも楽しめる！"と、それで"『天地3』もやりましょう"と言われたけど、それはもう勘弁してくださいと（爆笑）。

illustreet イラストリート





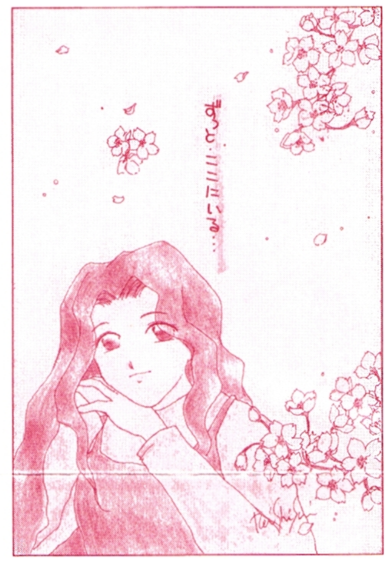


▲No.50110 P.N. 飛鳥ひろさん（東京都）
おコタでぽかぽか眠そうな砂沙美ちゃんが可愛い！



No.11341 P.N. 闇朱さん（福井県）▶
それって「劇場には行けない」ってコト？
でも、想いは寄せてくれてるんだから、観たいなーってコトだよね、ね、ね？

▲No.30367 P.N. 紫翠玲さん（大分県）
優しそうでキレイなハルナさんを、ありがとう。早くスクリーンで会いたいね。



▲No.60110 P.N. 暁智さん（奈良県）
菜々子、ホントーに可愛いよね。イラストはもちろんカラーも可！カラーで掲載できないのが残念だけどね。



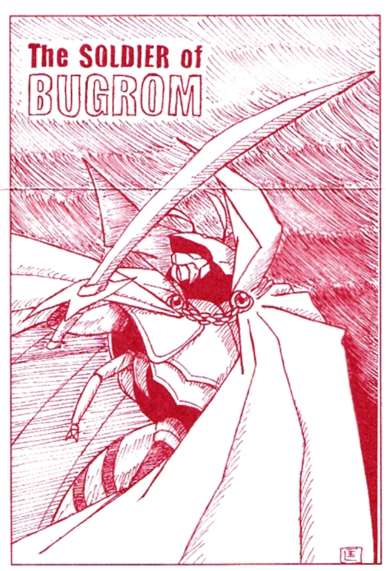
▲No.40968 大澤祐子さん（埼玉県）
いろいろスゴイ芸が見れそうな会ですね。多分、学校中の皆が来たがるでせう。



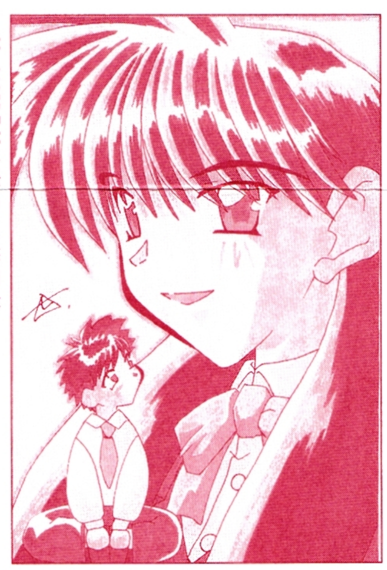
▲No.30671 滝口真也さん（千葉県）
続編、観たいよね～。まずは、「BOOTLEG」で新しい玲音ちゃんに会ってチョーダイ。



▲No.40940 石川匡彦さん（愛知県）
今年は、人が描きそうにないテーマで攻めてくれるそうです。いや、これは誰も描かんでしょう。一見カッチョイイけど…。



▲No.31355 P.N. 世津名さん（香川県）
新作「デュアル！」から一樹君と三月ちゃん。まだまだ資料が少ないのにうまいっ！



▲No.31355 P.N. 世津名さん（香川県）
いつもたくさんイラストを送ってくれる世津名さん。1枚に選び切れず、2枚掲載させていただきました。このあかりちゃん、好き！



お便り募集

どんどん お便りくださいな！

■ILLUSTREET（イラストリート）

パイオニアLDCのアニメ作品のキャラクター、声優さんの似顔絵、4コママンガなど、イラストなら何でも大歓迎！

■Salon DE PAC

その名の通り、PAC会員のサロンを目指すコーナー。パイオニアLDCのアニメ作品への感想はもちろん、日常にあった面白い出来事や、他の会員さんへの応援メッセージなどなど、何でもOKです。楽しいお手紙、待ってます。

■PAC伝言板

会員同士の交流コーナー。住所を公表したくない人は、PAC事務局留でもお受けします。

■ニセ陣内の紙面DEラジオ

ニセ陣内様に、PACについての疑問、人生の悩みなどを打ち明けよう。ニセ陣内様ならではの個性的な解答ですっきりできるぞ。新コーナー企画も募集中。お便りが紙面に採用された方には、編集部から素敵なプレゼントをお届けします。
（PAC伝言板はプレゼントの対象外とさせていただきます）

〈お便りのあて先〉
〒106-0031 東京都港区西麻布3-24-21-101
（株）ミーツ内
PAC事務局「○○○○（各コーナー名）」係

※マナーある会員交流をしてください。
会員同士で起こったトラブルについて、PACでは一切責任を負いません。
※応募作品の返却は、一切行っていません。
必要な方は、あらかじめコピーをとっておいてください。

A HAPPY NEW YEAR!
皆々サマ、本年もよろしくお願い申し上げます。
もちろん新年はコレ！ 年賀状特集からです。

PAC FORUM

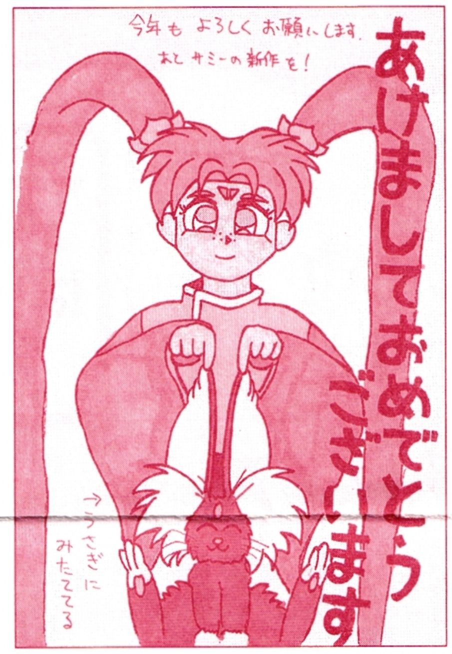
▶No.50543 P.N. 川メグさん（長野県）



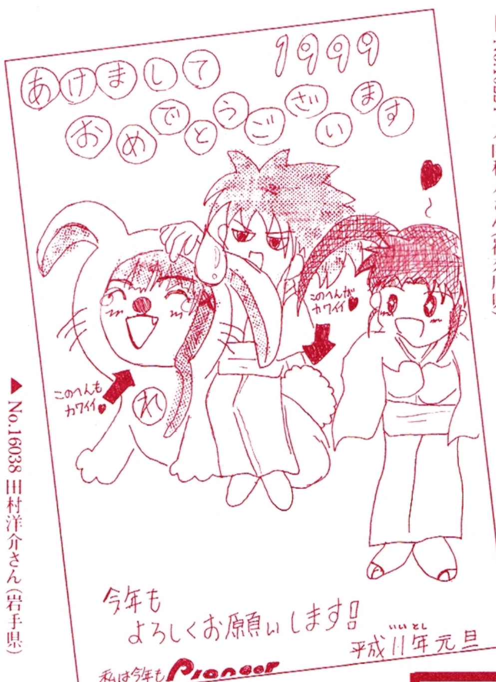
▶No.50506 高橋甚人さん（埼玉県）



▶No.20192 大薮高利さん（福岡県）



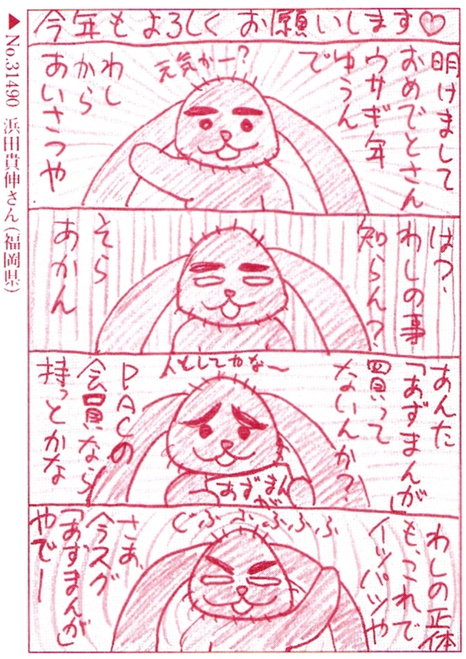
▶No.16038 田村洋介さん（岩手県）



▶No.10224 大内和人さん（神奈川県）



▶No.31490 浜田貴伸さん（福岡県）



PAC伝言板

●譲ってください。

■プリティサミーマジカル♥ナイト2CDスペシャルのマジカルプレゼントキャンペーンで当たる特製グッズのサミーの目覚まし時計、サミーのTシャツ、サミーのテレホンカードを希望価格で譲ってください。送料、手数料こちらでもちます。その他にサミー、天地無用！のグッズを譲ってくれる方、リストを送ってください。よろしくお願いします。

〒475-0004
愛知県半田市上池町1-4-8
水野辰哉　No.60195

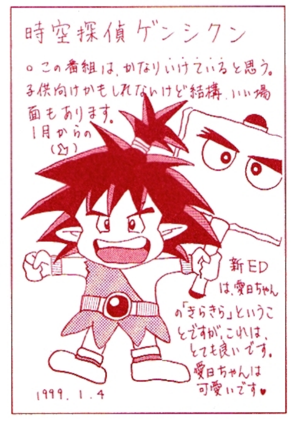
●仲間求ム。



▶〒343-0026
埼玉県越谷市北越谷2-9-2
西原大蔵　No.13662

Salon DE PAC

▶No.60110 北川祐介さん（奈良県）



編集部に初めて来た「ゲンシクン」のお便りなので、嬉しくて掲載しちゃいました。愛日ちゃんは、2月に1stアルバムも出るのでヨロシクネ！

ニセ陣内の紙面DEラジオ

■ニセ陣内様、大変です。私はテストで赤点を取り、単位を3つ落としてしまいました。この調子だと、皆と一緒に卒業できなくなるかも知れません。どうか先生に気にいられる卑怯な方法を教えてください。マジで大変です。

No.50512 P.N. すまぱんさん（沖縄県）

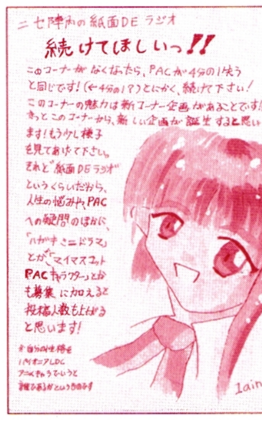
陣：昔、私の友人で先生の好物を付け届けして単位を取った者がいたが、今はそんなにのんびりした時代ではなさそうだ。やはり敵の弱みを握るべきだろう。とはいえ、今や個性の時代。性的倒錯や女装趣味があるくらいでは大したスキャンダルにはならない。先生が死ぬほど欲しがっている『限定販売商品』を並んで手に入れて、それを餌にするというのが、一番の良策だろう。

■地区や県によってPACが送られてくる順番が違うみたいですが、決まっているのでしょうか。

No.40164 渡辺貴博さん（新潟県）

陣：私としては、このコーナーの常連から発送したいのだが、残念ながら今のところ全員同時に発送している。だが、やはり届くのは事務局のある東京地区が早くなるようである。

▶No.16038 田村洋介さん（岩手県）



編：という意見もありましたが、「廃止に賛成！」というおハガキも続々届いております。ニセ陣内の運命や如何に？次号でいよいよ結論が出ます！

NEWS SCRAMBLE

「聖ルミナス女学院」最終話 アフレコ インタビュー



女生徒たちが原因不明のまま、次々と姿を消して行くという風変わったミステリアスな展開で視聴者を引きつけた「聖ルミナス女学院」が、いよいよすべての謎を解決する最終話の放送を終えて完結しました。

そこで、最終話のアフレコ終了直後、メインキャスト5人の声優さんと監督のアミノテツローさんにインタビューを敢行、「聖ルミナス女学院」という作品について様々なコメントを頂いてきました。

飯塚「えっと、木島糊湖役をやらせていただいた、飯塚雅弓です。この作品は、本当に最後まで最終回はどうなるのか?　結末はどうなるのか?ってワクワクしていた作品でした。糊湖は、みんなの後輩ということで、卒業せずにルミナス学院に残っているので、続きを楽しみに待っています。」

柊「シスター茜役の柊美冬です。え〜と、この作品は最初に見た時から不思議な感じを抱いてました。それは、オンエアとかを見ていても通して感じていた部分なんで、これが本作品の一番の魅力なんだなと思いました。糊湖も言ってましたが、なんかまだ終わった感じがしてないんで(笑)、まだまだすっきりしていない部分がないでもないんですけど。でも一応、みなさまお疲れさまでしたっていうことで。」

百々「エリザベス・良子・ブライアン役をやらせていただいた、百々麻子です。最初はルミナスのことをあまりに知らなさすぎて、もっと普通の学園ものかなと思ってたんですけど。こんなミステリアスな展開で、最終回はおじいちゃんの骨まででてきちゃって!　ちょっと衝撃的でしたけれど。とてもイメージ的に綺麗な作品で、やってて楽しかったです。みなさん、お疲れさまでした。」

保志「田波龍三(リュウ)役の保志総一朗です。ぼくも最初は、女学院を舞台にハチャメチャな話になるのかなと思っていたら、超シリアスな展開で。ちょっとこっちもどうしようかなと思いつつ、真面目にやらしていただきました(笑)。龍三は、男と女装のパターンがあるんですけど、男は最初と最後に少しだけで。もっと男もやってもよかったかなと。作品は終わったけれど、龍三たちの物語はまだ終わったわけではないと思っていますので、また次があったらぜひやってみたいと思います。」

岩永「木島海平役の岩永哲哉です。まずこの作品はミステリータッチの物語だと聞いていたんですが、あえて先の話を聞かずに毎週台本をもらって、次はどうなるんだろうと海平と同じ視点で演じてきたんですね。それがキャラクターとより深く重なることになって良かったと思っています。最後におじいちゃんが出て来るということで、何か未知なる結末とかがあるのかなと思ってたら、原因は人の心にあったんだということで、これはいい方向に期待を裏切ったステキな結末だなと思いました。」

そして次は、アミノテツロー監督にお聞きしました。ここからはインタビュー形式で紹介いたします。

声優さんたちのコメントが、終わった感じがしないっていう部分が共通してるのですが。その辺りは監督として意識されたものなんですか?

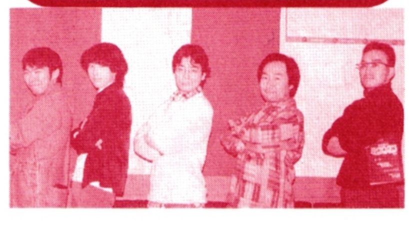
アミノ「こっちとしてはきれいサッパリとした最終回のつもりなんですけどね(笑)。ただ、話は特殊なんだけれど、あくまでも人が生きている内の一部の出来事を描いたという、それがすべてなんですね。私は17、8才の頃にこんな経験をしましたよと。誰でもいろんな思い出があるわけで、キャラクターにとっては『ルミナス』もそれの一つなんですよね。"私さぁ、私さぁ。高校の時に同級生が消えちゃってさぁ〜"という(笑)。"それでまたなぜか戻ってきたんだよ"っていう。キャラクターたちは、当然この後も生き続けるわけです。卒業した子たちは、たとえば大学に行く子もいれば、社会に出る子もいるだろうし。海平はじいちゃんに宣言したように、理事長を続けることにしたわけで。どんな事件も人生の一部でしかない。そういう意味で言えば、演じた人たちの"終わった感じがしない"っていうのは、いいように取ると(笑)、ボクのねらい通りに作品が仕上がったのかなと思います。」

98年12月から「聖ルミナス女学院」のビデオ、LD、DVDのリリースが開始されたわけですが、今までTVで観てきた人たちや、これから観ようという人たちに向けて何かメッセージをお願いします。

アミノ「え〜とメッセージになるかどうか分からないんだけど。年と共にいろんなことを思うようになって(笑)。とりあえず、世の中にはいろんな人がいて、人によって受け止め方は違うんですよね。それが言葉以上に実感として分かる時が来るんです。もちろん、こういったことだけではなく、作品から汲みとる"心"は色々なものがあると思いますが。それこそさっきも言ったように、同じものを見ても人によって受け止め方は違うんですから。まあ、『聖ルミナス女学院』を見てそれを獲得できるかどうかは分かんないけど(笑)。そういうことかな、見る人たちに理解してほしいことは。これがメッセージになればなと思います。」

ビデオ・LD・DVDで初めて見る人も、オンエアを見ていた人たちも、今度はその辺りを押さえながら楽しんでみて下さい。

ミクロマンアーサー役 伊藤健太郎さん インタビュー



1974年。およそ25年前に発売されて、子供たちの間で大人気となった玩具『ミクロマン』。

身長約8センチのこの人形たちが、同じく小さな、しかしとてつもなく邪悪なアクロイヤー軍団と地球の存亡をかけて戦うという物語に、当時の子供たちは胸をドキドキさせていた。

そのミクロマンたちが、今度はテレビアニメとなって大復活をした!

『小さな巨人ミクロマン』

それは小学4年生の主人公、久慈耕平が、宇宙の極悪軍団アクロイヤーと戦うべく、ミクロアースからやってきた5人のミクロマンと出会うことから始まる。手のひら大のヒーローたちと共に、地球の平和を守るために戦う少年の物語。

このミクロマンの中で、彼らのリーダー的存在であるミクロマンアーサー役を演じられている伊藤健太郎さんに、第1話のアフレコを終えた直後にインタビューを敢行してみた。

まず自分の演じられている、ミクロマンアーサーというキャラクターについて聞かせてください。

伊藤さん「ミクロマンアーサーは、本当にリーダー的なリーダーですね。熱血漢であって生真面目。会話の中で突っ込みにまわることはあっても、ボケることはないだろうというキャラクターです(笑)。まあ、真面目な普通のヒーローだと思います。ただ身体が小さいだけですよ(笑)。」

作品に対する感想はどうですか?

伊藤「すごくユニークな作品だと思いますね。僕も子供の頃にミクロマンを持っていたんですけど、やっぱり手の平サイズのヒーローが地球の存亡をかけて戦っちゃうところが面白いなと。もう、耕平クンとかが踏みつぶしちゃったら、アクロイヤー死んじゃうかもというようなサイズと戦ってるわけですから(笑)。」

ミクロマンは、20数年前の玩具が元なんですが、それを懐かしむ20〜30代のファンと新しい今の子供たち。そのあたりを意識して、難しいと思われる点はなんでしょうか?

伊藤「そのあたりは、あまり意識しないようにしてます。やっぱり狙いすぎるよりは正当なヒーローを演じて、子供たちにかっこいいなと思ってもらいたいし。25年前も亜流のヒーローよりは、正当なヒーローが多かった時代ですから、こちらの方が支持を受けるんではないかという気はします。」

では最後に、この番組を見ているみんなにメッセージを。

伊藤「ポケットの中にヒーローを。いつもあなたのそばにいます。ミクロマンより」

コーヒーカップにすっぽり入ってしまうヒーローの活躍、『小さな巨人ミクロマン』はテレビ東京系で毎週月曜日18：00〜18：30で放送中。伊藤健太郎さんを始め、5人のミクロマン戦士を演じた声優さんたちにポーズをとってもらいました。

「キュートでポップでかっこいい」

2月24日に発売される、水野愛日のファーストアルバム「pop　drops」は、そんなコンセプトでまとめられたアルバムだ。「キュート」も「ポップ」も「かっこいい」も、マナビーが大好きで、自分もそうなりたいと思っている言葉。だから、それをコンセプトに作られた「pop　drops」は、マナビーが本当に最大限の自信を持って「初めてなのに、大満足の出来っ!」と胸をはって言える作品になっているのだ。

今までのマナビーと新境地のマナビーが詰まったこのアルバムは、ファンはもちろん、今まで水野愛日というアーティストを知らなかった人にも必聴の一枚なのだ。

では、レコーディング終了直後のマナビーに、今回のアルバムについて語っていただこう。

アルバム全体に対して、どんな感想を抱いていますか?

水野「私も昨日初めて、テープという形で全部出来上がった曲を曲順通りに聞いたんですけれども。すごく単純な言葉で言ったら『感動』ですね。一番最初にレコーディングしてから、今までのこととかが甦ってきて、自分の中でもすごく感動的な感じでした。

『キュート』『ポップ』『かっこいい』という、普段自分がすごく好きな言葉で、自分が目指している言葉を表現できるアルバムになったんじゃないかなって、大満足の出来です。」

今回のアルバムに収録するにあたって、新たにレコーディングされた"おはよう""moon in the soup""Love&Snow""CHERRY""あなたに吹く風"の5曲についてコメントして頂けますか。

"おはよう"

作詞・森浩美・作曲・編曲・庄野賢一

水野「私が歌で一番言いたいと思っているのは、強さっていうか、"辛いことがあってももう一回立てる強さって持ってるよね"みたいなことなんです。それが、この"おはよう"の中で一番表現できてるかなと。この曲が上がったのは、ジャケットの撮影の最中で、休憩時間にお弁当を食べながら読んでたんですけど、ボロボロと涙が出てきて。それぐらい、自分の心にギューとくるようなポイントを持っている。そんな曲です。」

"moon in the soup"

作詞・飯塚麻純・作曲・編曲・庄野賢一

水野「これはすごく洋楽っぽくて、大人っぽいメロディの曲なんです。最初にメロディーだけ頂いた時は、"なんで庄野さんは、こんな大人っぽいのを書いて来たんだろう?"と思って、そのことを庄野さんに言ったんですね。そうしたら"でも、愛日ちゃんが歌えば愛日ちゃんの歌になるんだよ"と言ってもらえて。それがすごく嬉しくて、がんばって気持ちを込めて歌いました。」

"Love&Snow"

作詞・森浩美・作曲・編曲・島田充

水野「大阪でパレードの発売記念のイベントを行った時に、ファンの人にレコーディングは順調に進んでるよっていう報告をしたんですけど。"どんな曲が入ってるの?"という質問があって、それに"ZOOと広瀬香美さんを足したような曲が入ってるんだよ〜"って答えたんです。自分だと的確な説明だと思ったんですけど、"それじゃ全然わかんない"とか言われて、"ああ分かんないんだ〜"とか思ったんですけど(笑)。確かにそうですね。でも他の言葉で巧く伝えられなくて。そうですね。仲間で集まって、スノボーやスキーを楽しみに行くっていう曲です。"冬!スキー!!"みたいな広瀬香美さんにも負けないじょ、みたいな(笑)。」

"CHERRY"

作詞・飯塚麻純・作曲・日比野信午・編曲・河越重義

水野「この曲は、女の子の暖かい部分、やさしい部分、弱くて強い部分みたいな、そういう気持ちが表現できた曲だと思います。編曲を担当して下さった河越さんが、"大きな声を出すんじゃなくて、ささやくように歌ったほうが暖かみが出るよ"と言われて、"あっ!　本当にそうだ"と思いながら歌った曲です。」

"あなたに吹く風"

作詞・飯塚麻純・作曲・日比野信午・編曲・松永寛樹、長岡成貢

水野「これは、今回初めてCD化される曲で、プレイステーション用ゲームソフト"DOKI DOKIプリティーリーグ熱血乙女青春記"のエンディング曲になっていたんです。ライブでは、ギター一本のアコースティクバージョンで歌うことが多かった曲ですね。」

「歌をただ歌うだけじゃなくて、ダンスや衣装やいろんな要素を使って楽しめるものに造り上げる、エンターテイナーになりたい」と語る水野愛日さん。そんな彼女の、エンターテイメント性への一歩とも言える、「いろんなマナビー」が詰まったこの一枚を、ぜひともあなたのお気に入りCDに加えてください。



『スーパードール・リカちゃん』の(香山リカ役) 河野由佳さん プライベートインタビュー!



現在、テレビ東京系で放映されている人気アニメ、『スーパードール・リカちゃん』の主役で香山リカ役を演じる河野由佳さんに、リカちゃんに関するお話や、ごくごくプライベートなお話まで、いろいろと伺ってみました。

さて、どこまで聞き出せましたでしょうか……?

"リカちゃん"をやるのは声優のお仕事として初めてになりますが、最初はあの『リカちゃん』の主役をやるということで、どう思われましたか?

河野「やっぱり、あのお人形の"リカちゃん"というのしか頭になくて、それがアニメになったらどういうふうになるんだろうって思いました」

そうすると、アニメの中で動くリカちゃんと、実際に自分が遊んでいたリカちゃんとのイメージのギャップはありましたか?

河野「ええ、違いましたね。私が遊んでいた当時の人形のリカちゃんは、小学校3年生というよりはやっぱりお姉さんというか、年上の女性という感じがしたので。そういう意味では、アニメのほうが子供っぽいという印象がありました」

初めて主役ということで臨まれたアフレコ現場のほうはいかがでしたか?

河野「すごくいいです!　最初はやっぱり緊張したんですけど、もう2回目くらいからワイのワイのと。私はそこで"高校生"って呼ばれているんですけど(笑)、"高校生、今日は学校あるのか?"　"ありますよ〜!(悲壮な叫び)"という感じで。他にも、この間のテストはどうだったとか、学校では何が流行ってるのとか、そういう話をしたりして、空き時間は大抵おしゃべりしていますね。」

今年はリカちゃん以外にもいろんな仕事が入ってくると思いますが、こんな役にも挑戦してみたいなというのはありますか?

河野「そうですね。もっと自分に近いか、自分より年上の女性の役をやってみたいなぁと思っています。」

やっぱりリカちゃんは大変?

河野「もう、大変です、これが。可愛くやるのが!　テスト2回やって本番をやるんですけど、テスト2回で声が疲れちゃって、本番のときにはもうトーンが低くなってしまうんですよ。だから、今年は腹筋もしなくちゃいけませんね。」

じゃあ、プライベートではどうですか?

河野「勉強します。学校の勉強!　勉強、すっごく大変ですよ。(泣)」

リカちゃんもイイけど由佳ちゃんもとーってもキュートでイイ感じなのだ。そこで超ウレシーお知らせだよ。何とPACのみんなに由佳ちゃんのサイン入りリカちゃんポスターを3名様にプレゼント!　希望者は、PAC事務局「河野由佳ちゃんサイン入りポスター」係まで!

発行 株式会社ミーツ内 PAC事務所

〒106-0031 東京都港区西麻布3-24-21-101
TEL.03-3796-7375
E-mail(インターネットID):Pac2468@aol.com
●発行日／平成11年1月15日(Vol.64)
●発行人／真木太郎
●編集人／森尻和明　井出美恵　井原キヨシ
●STAFF／岸田雅惠　鈴木誠二　河合明彦
●印　刷／ミズノプリテック株式会社
●協　力／AIC
金子亜規子(コミックドラゴン)
波多野貴康(電撃コミック ガオ!)

ついにできたぞ!水野愛日オフィシャルファンクラブが会員募集!

ついに、我らがマナビーのファンクラブが発足!会員募集をスタートさせるよ。LDCアニメファンなら、即入会!決定だ!!

■(入会方法)

返信用封筒に80円切手を貼り、ご自分の郵便番号・住所・氏名を書いて下記までご郵送ください。折り返し、詳しい入会案内をお送りします。

〒150-8691
東京都渋谷郵便局私書箱76号
オフステーション内
「水野愛日ファンクラブ」入会希望係

『天地無用!in LOVE2〜遙かなる想い』 GW公開に先駆け、サウンドトラックが3／25発売決定!

品番:PICA-1189 2,913(税抜)

元クライズラー&カンパニーのメンバーで、『時空転抄ナスカ』などで活躍する斉藤恒芳がBGMを担当!　天地、魎呼、阿重霞、そしてハルナ…それぞれの想いを情感豊かに描いているぞ。

さらに、杏里によるテーマソング『Love Songが聞こえる』も収録。これを聴いて、一足早く『天地無用!in LOVE2〜遙かなる想い』の世界を体験しよう!